

# 首長部局と教委が一枚岩となった教育施策で、持続可能なまちづくりを支える人材を育む

山形県 山形市教育委員会 教育長 **金沢智也**

かなざわ・ともや 1986年、山形県公立学校教員として採用され、県内の公立中学校に勤務。山形市立中学校校長、山形市教育委員会学校教育課長、山形県教育庁村山教育事務所所長などを歴任。2022年4月から現職。

## 教育DXや部活動の地域移行を 首長部局と連携して推進

太平洋戦争で空襲の被害がなかった山形市は、歴史的建造物を有し、多くの文化遺産があります。近年は、霞城公園や山寺（宝珠山立石寺）、冬の蔵王温泉などでインバウンド需要が高まり、子どもが外国人旅行者を通じて世界に触れる機会が増えています。一方、県内では人口減少が進み、多くの市町村が「消滅可能性自治体」\*1と指摘されました。そうした中、本市は県庁所在地として県全体の活性化を主導する役割を担い、「健康医療先進都市」「文化創造都市」の2大ビジョンを掲げて持続可能なまちづくりに取り組んでいます。

その実現に不可欠なこととして、学校教育の充実を図っています。今、力を入れている施策は、教育DXです。本市では、授業支援ソフトやデジタルドリルなどの導入が完了し、2024年度中に市立小・中学校のすべての普通教室や特別教室に電子黒板を設置します。整備したICT環境を有効に活用できるよう、市全体で12

人のICT支援員を配置しています。

ハード・ソフト両面でICT環境が整備されたことで、授業改革の機運が一気に高まっています。若手教員とベテラン教員が一緒になり、ICTを活用した授業づくりについて前向きに議論する様子が、各学校で見られます。教育委員会では、学校現場の取り組みを支えながら、ICT機器を使いこなして主体的に学び、自分の考えをグローバルに発信できる子どもの育成を図っています。

教育施策の推進にあたっては、首長部局と教育委員会が一枚岩となって取り組んでいることが大きな強みです。例えば、教育DXでは、佐藤孝弘市長が「教育DXの目的は、『個別最適な学び』と『協働的な学び』の実現にある」と常々語り、財政面での強力な後押しがあります。

教員の働き方改革につながる部活動の地域移行も、首長部局の文化スポーツ部に設置された「部活動地域移行連携室」と教育委員会が連携して推進しています。スケートボードやボルダリングといった都市型スポーツが人気を集めるなど、子どもの興味が多様化する中、地域の団体と協

力することで、競技人口が少ない種目も実施でき、加えてより専門的な指導を受けられます。地域移行によって、子どもそれぞれにとって実りのある部活動の実現を目指しています。

## 地域・企業と学校が連携し、 未来の市を支える人材を育成

本市の地域活性化や人材育成のシンボリック存在として、唯一の市立高校である山形市立商業高校（以下、山商）では、「日本一の商業高校」を目指して教育内容の充実を図っています。市の産業や経済が大勢の山商卒業生に支えられていることもあり、地域や企業からの支援は手厚く、「ICT×地域・企業×学校」を掲げた教育改革を進めています。

特に力を注いでいるのが、探究学習を始めとした「生きた教育」です。例えば、山商の部活動の1つである「産業調査部」は、伝統文化「やまがた舞子」\*2の継承や市内の商店街の活性化など、地域課題に取り組んでいます。やまがた舞子の見学ツアーを企画・実施したり、市議会や全国高

\* 1 20～39歳の若年女性人口の減少率が2020年から2050年までの間に50%以上となる自治体。人口の再生産力を中心的に担う層を若年女性人口と捉え、その層が減少し続ける場合、人口の再生産力が低下し続け、総人口も減少するという考えを基にしている。民間の有識者グループ「人口戦略会議」が2024年4月に公表したレポートでは、全国1,729自治体のうち744自治体が消滅可能性自治体とされた。\* 2 地元の商工会議所や観光協会などが協力し、山形芸妓置屋組合と共存する形で株式会社を設立し、「やまがた舞子」として山形の芸妓文化を受け継いでいる。



等学校生徒商業研究発表大会で発表したりと、目覚ましく活躍する高校生の姿に、これからの本市を支える存在として頼もしさを感じています。

若年層の県外への流出は本県の課題の1つでしたが、いまやデジタルツールを使いこなすことによって、地元で暮らしながらグローバルに活躍することが可能になりました。そうした視点を持ちつつ、持続可能なまちづくりを支える人材の育成に努めていきたいと考えています。

中・高生が学校外でも主体的に学べるよう、環境整備もしています。市内8つの公民館に自習室を設置し、中でも市の中心部にある中央公民館と併設の市立図書館中央分館は、2023年度にリノベーションをして、個人やグループで自由に利用できる、Wi-Fiを完備した学びのスペースを設けました。土・日曜日を含めて22時まで開館しており、多くの中・高生が利用するほか、市民の生涯学習の

場としても機能しており、街なかかにぎわう一助となっています。公民館の年間利用者数は、2020年当時は14万人でしたが、2026年には31万人まで増やすことを目指しています。

### 子どもの可能性を信じて、 自ら前に進む姿を支える

私が教育施策において何より重視しているのは、子どもの可能性を信じて主体性を伸ばすことです。その大切さを教えてくれたのは、中学校教員時代に出会った生徒たちでした。

当時ソフトボール部の顧問を務めていた私は、強いチームにしようと教師主導型の厳しい練習を行っていました。しかし、運動経験の少ない部員が多かったある学年では、1年生対象の大会の初戦で大敗を喫してしまったのです。そこで私は、部員の意欲を引き出すことや自信を持た

せることを最優先に考え、主体性が高まるような指導に切り替えることにしました。

すると部員は自分たちで課題を見つけ、それを克服する練習方法を考えて実践し、試合では接戦の時ほど粘り強く戦うようになっていきました。そうして技術力・精神力ともにぐんぐん成長した部員たちは、誰もが驚いたのですが、3年生最後の県大会で準優勝に輝いたのです。私がそれまで育てたチームの中で最上位の成績でした。その経験を通じて、私は子どもの主体性を伸ばすということの真の意味と重要性に気づき、指導観が大きく変わりました。

教員が子どもの可能性を信じ、子どもが前を向いて進む姿を支えれば、私たちの予想をはるかに超えて子どもは成長を遂げます。そうした教育のあり方を先生方と共有して、一人ひとりの子どもに真に向き合っていきたいと思います。

#### 山形県山形市 プロフィール

◎山形盆地の東南部に位置し、山形城の城下町として栄えたまち並みを色濃く残す。教育の基本理念に「郷土を誇りに思いいのちが輝く人づくり」を掲げ、基本方針の1つを「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」として、魅力ある学校づくりや価値ある豊かな体験活動の充実などに力を入れる。 **人口** 約24万人 **面積** 381.58km<sup>2</sup> **市立学校数** 小学校36校、中学校15校、高校1校 **教員数** 1,219人 **児童生徒数** 約1万6,660人 **電話** 023-641-1212 (代表)